

2018.12.23 待降節第4主日

## 胎内の子は喜び踊る

ルカによる福音 1:39-45

そのころ、マリアは出かけて、急いで山里に向かい、ユダの町に行った。そして、ザカリアの家に入ってエリサベトに挨拶した。マリアの挨拶をエリサベトが聞いたとき、その胎内の子がおどった。エリサベトは聖霊に満たされて、声高らかに言った。「あなたは女の中で祝福された方です。胎内のお子さまも祝福されています。わたしの主のお母さまがわたしのところに来てくださるとは、どういうわけでしょう。あなたの挨拶のお声をわたしが耳にしたとき、胎内の子は喜んでおどりました。主がおっしゃったことは必ず実現すると信じた方は、なんと幸いでしょう。」

### 説教

**あなたの挨拶のお声をわたしが耳にしたとき、胎内の子は喜んでおどりました。**

ルカ1:44

マリアの挨拶を聞いたらお腹の子がおどった、エリザベトの賛歌の一節にこうあります。

ねえ、おばさん聞いてよ。天使ガブリエルがきてわたしが神の子をみごもり、産まれた子はダビデの王座につくと告げるのよ。わたしはまだ結婚もしていないからムリですといったら、エリザベトも年なのに妊娠してもう6か月になるとガブリエルはおっしゃり、あなたも聖霊によってみごもると言われるので、わかりました「ハイ」と返事したのよ。それで驚いておばさんのところに飛んできた、というわけなのよ。(ルカ1:26-38 要約)

マリアの挨拶とはこんな感じだったのでしょいか。

姪っ子マリアの訪問にさかのぼること半年前、エリザベトの夫であり祭司であるザカリアは至聖所で祈禱している最中にガブリエルから主の道を整える者の父となると預言されています。これを聞いたザカリアはにわかには信じ

られずその罰として声を一時的に取り上げられました。エリザベトは直接ガブリエルから妊娠予告を聴いていませんが、天使の働きのことは勘付いてはいたでしょう。

主のめぐみにより、エリザベトのお腹には洗礼者ヨハネが宿り、マリアのお腹には救い主イエスが宿っています。お腹の中にいるヨハネは同じくお腹の中にいるイエスが来訪してくれたので喜んでエリザベトのおなかを蹴りました。エリザベトの賛歌は胎児から見れば、産まれる前のヨハネ、イエスのいきさつにもなっています。

わたしたちキリストを信じる者たちの願いは主とともにいることです。いつでもどんなときでも、いっしょにいてくれる主がわたしたちを励まし慰めてくれることを信じることです。わたしたちがマリアさまを愛するのは、マリアが主と共にいるお方だからです。イエスを懐妊し出産した。マリアは自分のお腹に主を宿し、そしてお産みになられたお方だからです。文字どおり神とともにいる、インマヌエルがお腹に、そして心に宿っておられる方だからこそあこがれます。

クリスマスを抑えたアドベントの一日を、主の平和のうちに過ごすことができますように。そして福音にあずり信じることができたわたし達だけではなく、主の日を向かえる世界中の人々が主に祝福されますように。主を信じる人々が胎内に、心の中に宿しているものが、期待に喜び踊る日でありますように。

-----